

令和7年度 “社会を明るくする運動”可児地区作文コンテスト

小学生の部 社会を明るくする運動可児地区推進委員会 会長賞

「優しさとやってみようの力」

可児市立広見小学校 6年
田倉 ほの

私は、「人に優しくしなさい」と言われて育ちました。だから、頼まれたら「いいよ」と笑顔で答えてきました。それが私の思う優しさだったからです。でも、ある時気付きました。初めは相手のために手伝っていたつもりが、いつの間にか私が手伝うのが当たり前になっていました。断ればいいと分かっているけど、「きらわれたらどうしよう」「断ったら他の子が困るかも」と思い、仕方ないとあきらめっていました。自分が傷つくのが一番簡単だと思っていたからです。

そんな時、先生が言ってくれた言葉があります。

「一番大事なのは自分だよ。」

私はその言葉がとても心に響きました。本当の優しさとは何かを考えました。全部「いいよ」と言って引き受けるのが優しさなのかな。私が相手のがんばるチャンスをうばっていたかも。私は優しさの意味を間違えていました。

次の日、思い切ってこう声をかけました。「一緒にやってみよう！」すごく勇気がいるし怖かったけどそう伝えたらモヤモヤがスッと消えました。相手も理解してくれて、前より良い関係になれました。

そして、六年生からは自信がつき、今私は児童会執行部の会長をしています。児童会執行部とは、今年度から新しくできた学校をより良くするための組織です。初めてできた組織のため、何をするかは決まっていないからこそ好きなことに挑戦できるとワクワクしていました。

スローガンは「やってみよう！」に決まりました。なやむくらいならやってみよう。失敗してもいい。動かないと何も変わらない。自分の体験からこの言葉を選びました。全校のみんなもやってみようを考えるきっかけになればいいなと思い、先生に提案して目安箱を設置しました。すると、なんと約千枚の意見が集まりました。私の学校の児童数は八百十二名なのに、こんなに多く集まって「広見小学校はすごい！」と思いました。『みんなと仲良くなりたい』『学校をもっと明るくしたい』など、どれも学校や生活を良くしたいという素直な思いが伝わってきて、読んでいてやる気が出てきました。

そんな中、参加したのが生活委員のあいさつ運動です。一週間毎朝行いました。一日目は、元気に「おはようございます。」と言うと、笑顔で返してくれる子、少しほのかしそうな子、

色々な反応がありました。二日目以降は、私たちがあいさつをする前に先にあいさつをしてくれる子がどんどん増えていきました。この一週間でどんなあいさつでも返してくれると、心が温かくなるなと思いました。あいさつは、一番簡単なコミュニケーションだけど、一番心が通じ合うと思います。この活動を通して、優しさは言葉にも表れるし、小さな積み重ねの大切さを実感しました。

やってみようという気持ちは、みんなの心にあふれています。ただ、不安やはすかしさではじめの一歩が少し難しいだけです。でも、誰かが勇気を出して挑戦した姿を見て「私もがんばろう！」と思う人がいるかもしれません。そんなつながりが学校をもっと明るく、優しい場所にしていきます。それがみんなに広がれば、さみしさからのいじめや非行のない思いやりにあふれた社会を作っていくと思います。ひとり、またひとりと挑戦の輪が広がって行くように、私はそのきっかけになりたいです。